

# 長崎市域の市立小学校における 「総合的な学習の時間」の実態調査

富山 哲之\*

(平成17年3月15日受理)

## A Survey of Period for Integrated Study in Municipal Elementary Schools in Nagasaki City Region

Noriyuki TOMIYAMA\*

(Received March 15, 2005)

### 1. はじめに

現代は、国際化や情報化に伴う社会・経済・文化の急激な変化、地球規模の環境変化等の諸問題が複雑化、深刻化しており、これらの課題に対して緊急な対応を迫られている。そして次世代を担う子供達にとって避けて通れない生活課題である。

新学習指導要領に基づいて、2002年（平成14年）度から相次いで完全実施された小・中学校、及び高等学校の教育課程は「生きる力」を教育課程全般において培われる力としている。学習指導要領総則<sup>1,2)</sup>では、新設された「総合的な学習の時間」（以下、「総合的学習」と記す）においても自ら学び自ら考える力等の「生きる力」を育むとの方向性が示された。また、総合的学習の学習活動の内容項目として、国際理解、情報、環境、福祉・健康等の横断的・総合的な課題、児童の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題等に取り組むことを推奨している。

これまでに、本県内の学校においても、総合的学習の趣旨やねらいに即して各学校では地域の教育資源を活用した授業実践が精力的に行われている。多様な追求方法が考えられるが、多くの学校では総合的学習は今なお手探りの状態にあるように思われる。授業の成功例と同じく失敗例やその問題点についてはこれまで十分に把握されていないようである。

本稿では、長崎市域の市立小学校において実施されている総合的学習の実態の概要を述べ、分析と検討を行った。

---

\*長崎大学教育学部理科

## 2. 調査の目的

調査の目的は、長崎市域の市立小学校における総合的学習の実施状況について、総合的学習の目的、学習活動の内容、および活動時間という視点から明らかにすることである。

## 3. 調査の方法

長崎市は2005年（平成17年）1月4日に周辺の6町を編入合併して新「長崎市」を発足させた。これに伴い市内の市立小学校総数は56校から71校に増加した。本稿では、旧「長崎市」の平成14年度～16年度の「総合的な学習の時間」全体計画書<sup>3,4)</sup>に基づいて各小学校の第3学年から第6学年までの総合的学習の名称、及び目的、活動内容、実施時間等について調査分析した。標準授業時間数は、第3学年と第4学年は年間105単位時間、第5学年と第6学年が年間110単位時間がそれぞれ配当されている。前出の資料において、総合的学習の授業時間数を詳細に表示した学校25校について調査分析した。また、総合的学習の名称、学習単元の名称、活動内容については旧市域の学校56校について調査分析した。

## 4. 調査結果

### 4・1 長崎市の各市立小学校における総合的学習の内容項目と実施時間

調査した学校25校において、総合的学習に配当できる授業実施可能な年間総時間数は10750単位時間である。このうち学習活動に配当された時間は10076単位時間（93.7%）である。残りの6.3%の時間は、予備の時間または用途不明な時間である。表1に、平成16年度における学習活動の各内容項目に対する学年別の配当時間（93.7%）の内訳を示す。各内容項目について上段は配当された単位時間数、下段は当該学年における各項目の配当時間の占有率を示す。末尾は第3学年から第6学年までの全学年の実施率である。

表1 長崎市立小学校の総合的学習に対する内容項目別・学年別の授業配当時間

	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	平均(%)	実施率(%)
①国際理解	370	325	384	568	15.3	92
	14.1	12.4	14.0	20.7		
②情報	206	216	186	262	8.1	53
	7.8	8.2	6.8	9.5		
③環境	341	328	383	214	11.8	35
	13.0	12.5	13.9	7.8		
④福祉・健康	166	513	296	216	11.1	32
	6.3	19.5	10.8	7.9		
⑤地域・学校	1159	697	623	965	32.0	69
	44.2	26.6	22.7	35.1		
⑥人権・平和	178	175	572	146	10.0	38
	6.8	6.7	20.8	5.3		
⑦興味・関心	30	30	65	112	2.2	9
	1.1	1.1	2.4	4.1		
⑧生きる力・生き方	10	10	10	43	0.68	5
	0.38	0.38	0.36	1.6		
⑨食 農	21	58	86	74	2.2	10
	0.8	2.2	3.1	2.7		
⑩各教科等関連	10	7	11	10	0.35	5
	0.38	0.22	0.31	0.27		

## 4・2 総合的学習の名称

表2に、長崎市の各小学校における総合的学習の名称と代表的な単元名称を示す。各名称は、前出の平成14年度～平成16年度の資料を参照している。表中の空白部分は名称が不明である。

表2 長崎市立小学校の総合的学習の名称と単元名称

学校名	総合的学習の名称	単元の名称
戸石	かがやきタイム	3年「めざせ！いも名人」
古賀	楽学の時間	5年「古賀小米をつくろう」
矢上	きらきらタイム	3年「花と野菜のジュニア農業」
現川分校		
日見		5年「メダカ博士になろう」
伊良林	ゆうかりタイム	6年「中島川の環境作りをしよう」
諏訪	諏訪学習	5年「みんな諏訪っ子、エコエコ大作戦」
上長崎	上小タイム	4年「探検・発見・上長崎」
桜町	さくらライフ学習	3～6年「おくんちづくり」
西坂	かがやきタイム	3～6年「英語で楽しもう」
日吉		3～6年「ビワ栽培」
銭座	カップタイム	4年「伝え合おう、わたしたちの心」
橋	ひびきの時間	3年「発見！たんけん！たちばなの海」
式見	えのき学習	6年「わたしたち、式見小歴史探検隊」
手熊	手熊っ子の時間	5年「われら手熊川調査団」
福田	福タイム	6年「思い出に残る修学旅行に・・・」
小榊		3年「自然を大切にしよう」
飽浦	千船タイム	5年「伝統産業～長崎の鼈甲細工～」
朝日	さわやかタイム	5年「朝日ピース大作戦」
稲佐	稲佐チャレンジタイム	3年「稲佐じまん再発見」
城山	平和学習	6年「平和は城山から」
西城山		5年「平和はわたしたちから」
西町		3年「アジアの国の仲間たち」
畝刈	しおさい	5年「お魚大辞典を作ろう」
小江原	いきいきタイム	5年「環境問題、わたしたちにできること！」
鳴見台		6年「考えよう、これからの街づくり！」
桜が丘	さくら学習	3年「小江原の〇〇博士になろう！」
小島	FORゆうタイム	6年「発信！小島から」
愛宕	わくわく総合	3年「ハタからはてな」
茂木	長崎発見	3年「見つけよう！茂木のじまん」
南	南フロンティアスクール	3年「日本一ビワの町から」
佐古	くすの木タイム	5年「平和は長崎から」
仁田	四つ葉タイム	4年「長崎名物探し」
北大浦		5年「自分のよさ・周りの人のよさを知ろう」
南大浦	かなえタイム	5年「地域の先輩に学ぼう」
浪平	なみっ子タイム	5年「藍・愛がいっぱい」
戸町	くすのきタイム	4年「戸町あるある大事典」
小ヶ倉		4年「小ヶ倉水園を調べよう」
大山分校		
土井首	かがやきタイム	5年「走れ！土の子調査隊～平和学習編～」

深 堀	じょうやま	5年「平和は深堀から」
南 陽	ふれあいタイム	6年「長崎よかところ探検隊」
開成分校		
南 長 崎		4年「私たちにできるリサイクル」
西 北	西北タイム	4年「ハッピーまちづくり企画」
滑 石		3年「さん さん 3年! 龍踊りの巻」
大 園	おおぞのタイム	4年「私たちにできること」
西 浦 上		4年「ふれあい交流会をしよう」
川 平	かわひら	4年「ホテルプロジェクト」
高 尾		4年「美しい高尾の町」
山 里	かがやき学習	4年「平和学習～永井博士～」
三 原		3年「三原小や三原地区の秘密をさぐろう」
北 陽		4年「わたしたちの地球」
女 の 都		6年「女の都伝説」
横 尾	Sタイム	4年「横尾だんじりをまなぼう」
虹 が 丘		3年「岩屋山の自然とふれあおう」
西 山 台		5年「西山台から発信しよう」
坂 本		5年「平和は坂本から」
三 重	Go Go タイム	
鳴 見 台	鳴見タイム	6年「考えよう、これからの街づくり」

#### 4・3 新「長崎市」に合併編入された西彼杵郡各町の小学校15校の名称

(旧「外海町」) 神浦, 池島, 出津, 黒崎東 (旧「香焼町」) 香焼  
 (旧「三和町」) 蚊焼, 晴見台, 為石, 川原 (旧「伊王島町」) 伊王島  
 (旧「野母崎町」) 高浜, 野母, 脇岬, 樺島 (旧「高島町」) 高島

## 5. 調査の分析と考察

### 5・1

総合的学習の学習内容は各学校において適切に定めることができるのであるが、小学校の大多数は、学習指導要領に例示された「国際理解」、「情報」、「環境」、「福祉・健康」、「地域・学校」、「人権・平和」等をキーワードにしたスキル学習活動に取り組んでいることが分かる。これらは学年平均10～20単位時間で各学年または中高学年別に実施されている。テーマ学習については、各学年、20～40単位時間で複数の単元で行われている。

#### 項目①国際理解

表1に示すように第6学年では国際理解に関する学習活動の時間占有率20.7%を占める。各内容項目の中で第3学年から第6学年までの学年実施率92%は最大値を示す。各学校では、ALT(外国語指導教員)を活用することから国際理解学習(ハローイングリッシュ)が展開されている。

#### 項目②情報

各学年の学習活動の時間占有率は平均約8%を占める。学年実施率は53%である。パソコンの基本操作の習得、活用を中心とする学習である。実際は他の学習活動でインターネットによる調べ学習が行われているので児童がパソコンに接する機会はかなり多いものと推測される。

### 項目③環境

環境関連の学習活動の時間占有率は平均約12%を占める。学年実施率は35%である。各学校で取り扱われる学習題材は、地域の自然環境や環境問題、地球環境問題等の広範囲に亘る。

### 項目④福祉・健康

学習活動の時間占有率は平均11%を占める。学年実施率は32%である。ともに前項の環境と同程度である。バリアフリーの町づくり、キャップハンディ体験、高齢者との交流活動等を学習題材にしている。

### 項目⑤地域・学校

学習活動の時間占有率は32.0%で最大値を示す。学年実施率69%は前出の国際理解に次いでいる。各学校は、学校、校区、港町・長崎のよさを調べる学習活動に取り組んでいる。歴史・文化都市・長崎は素材の豊富さでは他に引けをとらない。児童の格好の活動舞台である。

### 項目⑥人権・平和

学習活動の時間占有率10%を占める。学年実施率38%である。前出の環境と同程度である。被爆都市・長崎において、各学校で長い間全市的に行われてきた平和学習は、現在は総合的な学習の活動の一環である。爆心地から離れた学校においても調査活動や情報発信活動が盛んに行われている。

## 5・2

学習指導要領によれば総合的な学習の名称は各学校で適切に定めることを推奨している。表2に示すように、総合的な学習の趣旨が児童や地域の人々によく分かり、親しみのあるような名称を付けているのがよく分かる。また、各学年のテーマ・各単元の名称から各学校の具体的な学習内容が推測できる。中学年は総合的な学習の入門期であるから、各学校は低学年の教科「生活科」においてその下地づくりを行っている。

### (1) 国際理解教育

国際理解に関する学習の一環として、学校に派遣されるALT（外国語指導教員）制度を利用したネイティブスピーカーによる英会話（ハローイングリッシュ）の授業が取り入れられている。担任とALTとのTT指導が行われている場合もあるし、また、ALTの存在は現職教員の校内研修にも役立っているようである。英語活動の他に、異文化（歴史）理解、自国文化（歴史）理解、を柱に、交流活動に結び付けて学習活動を行っている学校も見受けられる。英語遊び、ハローイングリッシュ活動と関連して、児童が外国語に触れたり外国の生活・文化に慣れ親しむような学習活動が取り入れられている。小学校低学年からの取り組みが見られる。簡単なあいさつの仕方、数の数え方、人体各部の名称や動物の名称、ゲームや言葉遊び等を通して英語に親しむ学習である。中・高学年では、あいさつや自己紹介の仕方、簡単な英会話ができることを目指している。

西坂小学校は、平成9年度から、特設の「英語の時間」を中心としながら国際理解教育について研究を行っている。その研究の成果は総合的な学習の中に受け継がれている。英語の日常化を図るための「ハローイングリッシュ」、及び生きた英語を学ぶ「グローバルビュー」、そして様々な異文化体験の場として市内のALTとの交流や西坂ハロウィン、市内留学生

との交流、国際観光船との交流等の「交流活動」がある。この3つの柱を中心として、児童の表現力の育成や国際感覚を磨くための教育研究が行われている。第3学年～6学年までの総合的学習の総時間数430時間のうち国際理解関連の時間は約80%を占めている。国際理解教育と英語教育との関連を深めた内容構成を取っているようである。同校は長崎駅や長崎港近くに位置しており、学習活動を行う上で有利な立地条件を生かしていると言える。

#### (2) 情報教育

学校教育においてパソコンの普及率はかなり高くなっているものと思われる。パソコン基本操作の習得を中心として、様々な情報の収集、整理、発信の手段として活用するための技能習得の時間として単元の中に必要に応じて位置付けられている。小学校低学年から児童にパソコンにふれさせ、使用の際、してはいけないこと(パソコン遊び)を教える教育が行われている。中学年においては、ローマ字入力習得等(基本操作)が中心であり、高学年ではメール、ホームページ等、パソコンを活用する学習である。

深堀小学校は、地域教育に次いで情報教育にも比較的多くの活動時間を割り振っている。同校では、第3学年から第6学年まで情報関連の学習活動の時間は100時間であり約23%を占めている。他校と比べて情報の学習活動の時間比率は最も高い。次いで南陽小、飽浦小が90時間を越えている。

#### (3) 環境教育

21世紀は、環境の世紀だと言われている。地球温暖化問題や森林破壊、オゾン層破壊等地球規模の問題が顕現化しているし、身近な環境問題まで避けては通れない課題が山積している。レイチェル・カーソン<sup>5)</sup>は環境悪化による人類の危機を四十年も前にいち早く指摘している。自然(保護)教育は“Sense of Wonder<sup>6)</sup>”，環境問題は“Think Globally Act Locally”と言われるように身近な取り組みが必要である。環境学習に取り組んでいる学校では、校区内を流れる川の調査、川の美化、ホタルの幼虫の飼育や放流等、海に面した校区であれば海岸の美化計画、漂着ごみの分別、海岸で取れる魚の図鑑作り等の活動が行われている。

川平小学校は、市街地を貫流する浦上川の上流域に位置し市街地化が進んでいるが、校区周辺は小高い山に囲まれて自然に恵まれている。同校では、環境学習に総合的学習の実施時間の約85%を配当している。各学年のテーマは、第3学年「生き物となかよし川平たんけんたい」、第4学年「川平ホタルプロジェクト」、第5学年「今、川平の川は・・・」、第6学年「森は生きている」である。学校ビオトープや校区を流れる浦上川の源流を取り巻く自然を対象にした自然体験活動が行われている。

#### (4) 福祉・健康教育

わが国は少子高齢化社会へ進んでおり、福祉・医療・介護の充実が求められている。坂の多い街・長崎では、バリアフリー施設の設置等の住環境整備が進められている。学校教育においても避けては通れない課題である。食と健康、福祉の精神、思いやりの心等に関する学習、高齢者や障害者との交流、ボランティア等の社会体験学習が盛んに行われている。

仁田小学校は、福祉・健康教育に第3学年から第4学年までの実施時間数430時間のうち28%、畝刈小学校は31%を割り当てており全体として最も高い。同校では、第5学年で「心づかいと手助けについて考えよう」、第3学年「みんなに優しい町づくり～車椅子、ア

イマスク体験を通して～」に多くの活動時間を割り当てている。

#### (5) 地域・学校教育

長崎は1571年（元亀2年）に開港、史的遺跡である出島は1635年（寛永11年）に竣工、寛永18年から阿蘭陀屋敷と称された。長崎開港以来400年余間に醸成された歴史・文化環境は比類のないものである。その外交史を飾る花は、長崎に開いている諏訪神社の大祭（諏訪の祭り）、精霊流し（盆祭り）、紙鳶揚げ（はた揚げ）であり、古くから長崎三大名物として広く知られている。

桜町小学校は、最近都心部にある小学校の統廃合により新設された。隣接する諏訪神社の秋の大祭「おくんち」の頃になるとこの界限は賑わう。同校では、「おくんち」を総合的な学習の課題として取り上げている。児童の実態は、地域の伝統・文化を知り、継承して行こうとする意欲があると見ている。各学年の創意工夫に任せて、児童がやる気を持って、地域と関わり、活動を作り上げていくことを目指している。

愛宕小学校は、児童にとって身近な家族や地域をベースに考えて地域教育に取り組んでいる。総合的な学習の時間80%を地域学習に配当している。同校では、長崎の伝統工芸である「ハタ作り」を学習題材として全75単位時間（約17%）を割り振っている。第3学年のテーマは「むかしのおもちゃを、作って、遊んで、名人をめざそう！」、単元「ハタからはてな学習」に取り組んでいる。同校の校区内にある唐八景（標高約300m）は今年も伝統の春のハタ揚げシーズンに入る。

日見小学校が位置する地域は、元来、自然環境、文化的歴史的環境等豊かな環境に恵まれた地域であるが最近では都市近郊のベッドタウンである。人口の流入・転出の割合が高く地域社会の崩壊が進みつつあると言われている。同校では「地域との共生」を課題として、地域の良さを知り、地域に愛着を持ち、よりよい地域を創造しようとする児童の育成に努めている。このような傾向は他のベッドタウン地域にある桜ヶ丘小学校、小江原小学校、鳴見台小学校にも見ることができる。

地域学習では、有料施設を利用することが多い。シーボルト記念館、長崎市立博物館等は教育委員会、グラバー園、出島資料館、永井記念館等は市の観光振興課へ減免申請を行い経費負担を軽減する措置が取られている。

#### (6) 人権・平和教育

被爆都市・長崎は1945年8月9日の原子爆弾投下から60周年を迎える。この節目の年に当たり、長崎市は、若い世代が独自の平和活動に取り組むようになる等、成果を上げているとし、このような平和活動を継続的に充実・発展させるために、2005年4月から平和学習の拠点となる「平和学習支援室（仮称）」を新たに設置することを明らかにした。これまでの平和教育は、爆心地に近い城山小学校や山里小学校を中心として長い年月の流れの中で育まれてきた。

2005年（平成17年）2月9日、城山小学校で第643回目の平和祈念式と恒例の平和学習発表会が行われた。昭和26年以来、少年平和像の建立に合わせてスタートした平和祈念式は毎月9日に開かれており、原爆で犠牲になった同校の1400人余の児童や教師を追悼する。児童らは発表会の始まる前に「子らのみ魂よ」を斉唱し、校庭の端にある「原爆殉難者の碑」に黙祷・少年平和像に拝礼した後、教室や体育館等でこの一年間に取り組んできた学習の成果を学年末のこの時期に総まとめとして披露するのである。

6年生は体育館で「国際平和について」を主題に5つのグループに分かれて披露した。各学年ごとのテーマは次の通りである。1年生は「かよこ桜といっしょに」、2年生は「わたしたちの少年平和像」、3年生は「平和の木々から発信しよう」、4年生は「永井坂を世界の人に知らせよう」、「かよこ桜と小鳥たち」、5年生は「ピース・ナビ」等である。図1、図2に児童の学習発表の様子を示す。

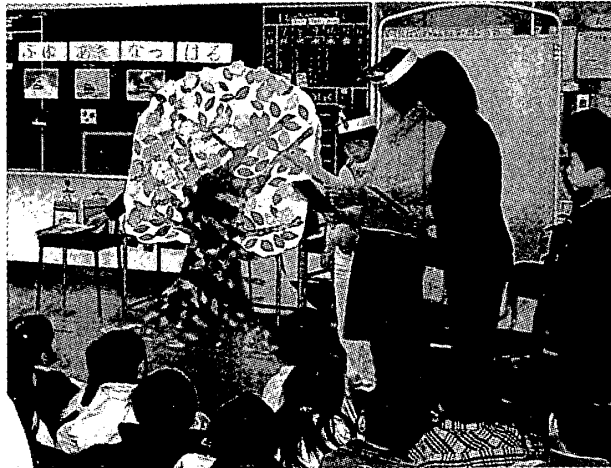


図1 学習発表「かよこ桜と小鳥たち」の様子



図2 学習発表「放射線」の様子（平和祈念館内）

原爆遺構・被爆校舎である「城山小平和祈念館」は1999年（平成11年）2月25日の開館から7年目を迎える。これまでに訪れた修学旅行生は、現在10万人を越えているという。館内には当時の原爆の惨禍を伝える数多くの古写真が展示されており、原爆の悲惨さ、戦争の残酷さを肌身で感じた児童生徒達の思いが館内に備え付けてあるノートに綴られている。

山里小学校は、前述の城山小学校と同じく爆心地から500m程の所にある最近接の被爆校である。校庭の崖には悲惨な歴史を刻む防空壕跡が残存する。また、付近には永井隆博士が居住した如己堂がある。同校はこれまで6年間に亙り平和学習に取り組んでいる。その間の足跡や平和に対する思いや学習してきたことは平和ノートに綴られている。本格化した総合的学習においても「児童にできる平和活動」に力点が置かれ、調査活動をしたり、語り受け継いでいくことを子供たち自身の課題として捉えて被爆地から世界に向けて情報



を発信する学習活動が行われている。

爆心地から遠く離れた学校においても平和学習に1学年当たり25～35単位時間を配当して体験活動、追及活動が行われている。土井首小学校、及び深堀小学校では、爆心地公園や原爆資料館、被爆遺構、城山・山里小学校めぐりのコースを設定している。

錢座小学校は、総合的学習の名称を、同校卒業生の清水崑に因み「カップタイム」と称している。同氏が描いた校舎の壁画「なかよし」は「ふうちゃん・たあちゃん」という河童が仲良く遊ぶ姿である。同校では、平和学習を基軸に人権総合学習カリキュラムを構成しているところに特徴がある。1学期は「平和について学習しよう」というテーマで全学年共通の取り組みを行い、平和祈念集会で学習成果が披露される。2学期は、ゲストティーチャーを招聘し舞踊の指導が行われる。「長崎ぶらぶら節」の振り付けが行われ5・6年の児童はぶらぶら踊りに習熟する。その成果は「長崎ぶらぶらフェスタ」や福祉施設で披露される。3・4年、5・6年合同で、高齢者との交流をテーマに取り組みその成果は人権集会で披露される。3学期は、「この町大好き」、「異学年・異学校との交流」等、各学年でテーマが決められている。

## 6. まとめ

本調査によって、現在、長崎市の市立小学校で実施されている総合的学習の現状の一端が明らかになった。

長崎市域の市立小学校では、総合的学習の内容項目として「国際理解」、「情報」、「環境」、「福祉・健康」、「地域・学校」、「人権・平和」の6項目に代表される。この6項目の配当時間が総合的学習の年間総時間数に占める割合は88.3%である。この中で時間占有率が最も高い内容項目は「地域・学校」である。学年実施率は「国際理解」の内容項目が最も高く、その次に内容項目「地域・学校」が続いている。「人権・平和教育」関連では、被爆都市・長崎において城山小学校または山里小学校等は平和教育を総合的学習の基軸としている。同校では、平和学習は長きに亘り継承されており、人権・平和教育の一端を担う重要な活動であることは言うまでもない。この事例のように、幾つかの学校はテーマ学習に多くの時間を配当して、各教科、道徳、特別活動との連携・協力を図りながら、学校独自のオリジナリティを出す努力をしているのが分かる。地域密着型の大きなテーマとして実施することにより、地域住民との関わりが緊密になり、学校の存在意義も高められているように思われる。

今後、「ゆとり教育」から「学力重視教育」への志向が強まると考えられる中で、総合的学習を持続性のある追求活動としていくためには教師の力量に負うところが非常に大きいように思われる。

## 参 考 文 献

- 1) 文部科学省編：小学校学習指導要領解説－総則編－(東京書籍,平成16年)51.
- 2) 村川雅弘,小林毅夫：小学校学習指導要領の展開－総合的学習編－,(明治図書,1999)18.
- 3) 長崎市小学校教育改革研究部会編：平成14年度「総合的な学習の時間」研究収録
- 4) 長崎市小学校編：長崎市小学校平成16年度「総合的な学習の時間」全体計画書
- 5) Carson,Rachel L.,青樹築一訳：沈黙の春,(新潮社,2001)17.
- 6) Carson,Rachel L.,上遠恵子訳：センス・オブ・ワンダー,(新潮社,1996)7.